

## ■活動レポート

## 「文化財等取扱講習会 ―文化財等の資料の活用と保護を目指した研修―

専門学芸調査員 佐々木 整

岩手県立博物館では毎年、「文化財等取扱講習会」を開催しています。県内各市町村の文化財担当職員および県内博物館等関係者を対象に、文化財や自然史系資料の取扱い方法に関し基礎的な知識と理解を深め、文化財等の活用と保護に資することを目的としています。

当館が開館した翌年度の昭和56年度に「文化財保存管理講習会」としてスタートしたこの講習会は、当館の職員が研修を担当し、資料の劣化対策、適正な保存環境の維持など、資料の保存管理方法に加え、軸装や刀剣の取扱い方、資料の梱包の実技、民具や考古資料の実測など、研修の内容を年々充実させてきました。さらに、参加者のニーズに合った研修が受講できるようにコース選択制も取り入れられました。昨今の文化財活用の実態や参加者の要望に応え、昨年度からは、資料の展示方法や博物館等での教育普及活動の方法について研修するコースを新設しました。

昨年度は、参加者が38名で、実施した

コースは次のとおりでした。

- 1 古文書・古美術資料の取扱い、梱包方法の基礎（入門コース）
- 2 文化財の保存処理と保管方法、自然科学的調査方法（文化財科学コース）
- 3 地質、生物標本およびデータの取扱いと管理（自然史コース）
- 4 歴史、民俗、考古資料等の文化財の収集、調査、管理（文化史コース）
- 5 展示会の実施方法、教育普及活動（展示・教育普及コース）

実物資料を用いての実技指導をできるだけ取り入れているのが大きな特徴で、近年ではプロジェクターによるプレゼンテーションも実施し、より深い知識と技術の習得を目指しています。例年、参加者から、活発な意見や質問が出され、関心の深さをうかがわせます。

この講習会は、初めて文化財に関わる業務を担当する参加者も多い他、情報交換の場としての意義も含め、長年にわたり文化財の取扱い方法の熟達に寄与してきました。

「文化財等取扱講習会」は、今年度も2月4日(水)から6日(金)の3日間の日程で開催します。

また、特別講演会として、講師に外部の有識者をお招きし、文化財等の取扱いに関わりが深い内容を中心に、ご講演いただく「冬期文化講演会」が講習会日程に盛り込まれています。これまでに歴史・民俗・考古・地質・生物・文化財科学の各分野について大学・研究機関・他の博物館等の専門家による講演が催され、研修の一層の充実が図られてきました。

昨年度は、「無形の民俗文化財映像記録の可能性と課題」と題して、東京文化財研究所主任研究員俵木悟氏にご講演いただきました。今年度は、医学博士の篠永哲氏から衛生害虫などの有害生物についてご講演いただく予定です。この「冬期文化講演会」は、一般の来館者も聴講することができます。詳しくは、最後のページにあるインフォメーション欄をご覧ください。



入門コース（古美術品梱包材の作成）



文化史コース（考古資料の撮影法）



冬期文化講演会

## ■活動レポート

## 博物館実習

学芸員 八木 勝 枝

8月21～28日（月曜休館日を除く7日間）、博物館に未来の学芸員がやってきました。

博物館には、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う学芸員という専門職員が必要です。その学芸員資格取得の条件として、博物館法第5条第1号には「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と定められています。単位取得には博物館実習が必須で、当館でも毎年博物館実習を実施し、これまでも数多くの実習生を受け入れてきました。

当館は地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学それぞれに専門の学芸員がおり、講師にはそれら第一線で活躍する学芸員があたります。今回の実習生は、岩手県内の大学生を中心に、北は北海道大学から南は茨城大学までの9名。博物館構想等の講義、各分野の実務や様々な教育普及事業、また、博物館を支える様々な職種業務を短期間で体験していただきました。

大学のプログラムから離れた実践の場。扱う資料はほぼ全て実物。また、博物館には多くの来館者がお出でになります。幾度となく訪れる対人コミュニケーションの場面。実習生は何を感じ、どのようなことを学び取ったのでしょうか。

## 『博物館実習体験談』

盛岡大学4年 三河綾乃

博物館実習では、様々な実習を通して学芸員としての仕事を学びました。岩手県立博物館は総合博物館であり、学芸員は地質・考古・生物・歴史・古美術・民俗といった各専門分野にわかれて仕事をしています。実習生側も理学や農学・考

古・歴史など異なる学部の方が集まり、一緒に実習を行うことによって自分の専門分野以外の学芸業務も体験することができました。

私が大学で学んでいる「歴史」分野の実習では、絵葉書の資料整理や掛け軸・巻物の展示方法の実践、刀剣の手入れ、仏像や鎧の梱包実習などを行いました。

絵葉書の資料整理では、膨大な資料の中から必要な絵葉書を選び出し、さらに保管管理しやすいように分類・整理するまでの作業を行いました。自分の欲しい資料を選び出すのにはかなり時間がかかり苦労しましたが、この作業から博物館の資料を誰でもいつでもすぐに取り出しやすいよう常日頃から分類・整理する仕事の大切さを実感することができました。



生物の収蔵庫 登録・保管

刀剣の手入れでは、学芸員の先生に「この刀剣は本物だから手を滑らせると本当に切れますよ」と指導され、緊張した上に予想以上に刀剣が重いので少し手が震えながらの実践でした。博物館に収蔵されている本物の資料に実際に触れながら学ぶことができたことが私にとっては嬉しく、とても良い経験になりました。

その他「考古」では土器の分類を、「民俗」では民具の展示替え、「地質」では展示資料の準備、「生物」では収蔵庫のくん蒸作業など様々な実習に取り組みました。



掛軸を扱う

また、子供向け体験教室で子供達と虫取りをしたり、古文書講座で受講生の方と一緒に古文書に触れたりすることによって「教育普及の実務」について学びました。展示活動とは違った形で来館者の方と触れ合える貴重な機会でした。



古文書講座受講生の皆様と

実習をする以前私は、学芸員の仕事といえば展示の企画や体験教室の運営といった表の仕事ばかりに目がいきがちでした。しかし、実習で博物館の裏側で行われる資料収集や保管の仕事に携わることにより、「過去の貴重な資料を集め現代そして未来の人のために活用すること」の大切さを学ぶことができました。表には見えない地道な裏方の仕事が多いですが、「過去・現代・未来」の人々を繋げる学芸員の仕事は、奥が深くやりがいと使命を持った仕事であると感じました。博物館実習で学んだことを今後の勉学に活かしながら成長していきたいです。